

基軸 4 都民や企業等による森林利用の拡大

- 東京に集中する人や企業等が有する力を、森林整備や林業振興に生かすことは、森林・林業が抱える様々な課題解決の糸口となるだけでなく、持続可能な社会の形成にも貢献し、計り知れない効果が期待できます。
- SDGsが掲げる目標の多くに関連する森林に対して、社会の関心が高まりつつある情勢を踏まえ、健全な森づくりに向けて都民や企業等の行動を促していきます。
- レクリエーション、保養、教育など、様々なサービスの場を提供する森林の魅力を引き出すことで、森林と都民の関わりを一層深めるとともに、森林を生かした地域の産業振興につなげていきます。

基軸 4 施策の体系

施策 4-1 SDGsを目指す協働の森づくり

- ア 企業等による森林利用の促進
- イ 都民の森づくり参画の促進

施策 4-2 森林を生かした産業振興

- ア 多様な森林利用の促進

施策 4-1 SDGsを目指す協働の森づくり

なぜ取り組みが必要か

- ◆ SDGsが掲げる目標の達成に向けて、様々な主体と連携し、森林の保全や持続可能な利用を通じて、地域の環境、社会、経済に貢献していく必要があります。

2030年度に向けて

- ▶ 都民や企業等の森づくりへの参画を促進し、社会貢献活動などにおける森林の活用を拡げていきます。

具体的取組



ア 企業等による森林利用の促進

- 「企業の森」【資料 3-17】において、企業等の要望に応じて活動内容を柔軟に見直すことなどにより、協力関係の継続を図るとともに、より多くの参画を促していきます。
- SDGsを目指す企業等の要望や提案を取り入れることで、森づくりにおける新たな協働の枠組について検討し、持続可能で多様な森林利用の拡大を図ります。
- 森林整備や木材利用による二酸化炭素の吸収量、固定量を都が認定する「とうきょう森づくり貢献認証制度」【資料 3-19】により、企業等が行う社会貢献活動に協力します。

イ 都民の森づくり参画の促進

- 多摩地域の森づくりに参画することの大切さや、参画する方法について、様々な拠点やイベントなどを通じて都民に情報発信します。
- 熟練した技術者の下で都民が林業を体験し、健全な森づくりに貢献する「とうきょう林業サポート隊」【資料 3-18】について、幅広い世代にPRし参画を募ります。
- 花粉発生源対策を求める都民の声は今後も高まると考えられることから、引き続き都民に対し「花粉の少ない森づくり運動」【資料 3-16】への協力を仰ぐとともに、花粉発生源対策だけに留まらない森づくりの意義について、普及啓発を行います。

▶ 資料 3-16 「花粉の少ない森づくり運動」の推進



東京都と（公財）東京都農林水産振興財団は、多摩地域のスギ・ヒノキ林を伐採し、少花粉スギ等に植え替える「花粉の少ない森づくり」を進めています。

花粉の少ない森づくり募金

- 花粉の少ない森づくりを目的とした募金活動を行っています。
- 募金は、花粉の発生源となっているスギ・ヒノキ林の伐採や、少花粉スギ等への植え替えなどに充てられます。



花粉の少ない森づくり募金箱

企業の森

- 企業や団体の皆様に、少花粉スギ等の植栽や保育等に係る費用を寄付していただきます。→詳細【資料 3-17】



企業の森における植栽活動

森づくり支援倶楽部

- 花粉の少ない森づくり募金に一定額以上を寄付された全ての方が会員となります。
- 活動報告書、会報誌、メールマガジンのほか、森づくりイベントを通じて、多摩の森林への理解を深めていただきます。



会報誌

花粉の少ない森づくりの PR

- 多様な企業や団体等と連携し、都内で様々な PR 活動を行い、募金にご協力をいただいています。



みどりとふれあうフェスティバル（日比谷公園）



東京おもちゃまつり



森林セラピーイベント

上記のほか、暮らしの中で多摩産材を使っただけなくとも、花粉の少ない森づくりにつながります。

地球温暖化防止に貢献しながら、健全な森を未来に引き継いでいくため、花粉の少ない森づくり運動に対し、多くの方のご参加をお待ちしています。

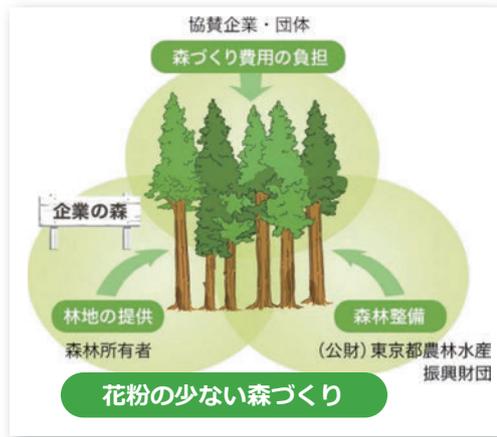


多摩産材を使ったノベルティ

「花粉の少ない森づくり運動」にご賛同をいただいた企業や団体の皆様から、森林整備への資金協力をいただくとともに、社員やご家族の方の森づくり体験などに森林を活用していただきます。

「企業の森」の仕組み

森林所有者、協賛企業・団体、(公財)東京都農林水産振興財団の三者で協定を締結します。協定の期間は、花粉の少ない森の整備において最も経費がかかる初期の10年間が基本となります。



協賛企業・団体の皆様から、「花粉の少ない森づくり募金」へのご協力と、植栽や保育等に係る費用のご負担をいただきます。



参加企業のメリット

イメージアップ

- 森づくりを通じて環境問題に取り組む企業イメージをPRできます。
- 森林に名前を付け、現地に看板を設置できます。
- 「とうきょう森づくり貢献認証制度」【資料 3-19】による森林整備のサポート認定が受けられます。



協賛企業の社員の皆様

環境教育の場

- 社員の研修や、社員のご家族の森づくり体験の場として、森林を利用していただけます。



植栽体験



下刈り体験



ネイチャーガイドツアー

CSR活動

- 社会貢献の活動として報告書などに記載ができます。



植栽後3年目の企業の森

SDGs

- SDGsの目標達成に貢献できます。



活動日・人数
毎週水曜日・土曜日
各回定員 12名程度

活動事例

「とうきょう林業サポート隊」は、ボランティアとして、主伐事業の対象林で植栽や下刈り等の施業に携わり、森づくりをサポートする活動を行っています。

活動は、林業の専門家の指導のもとで行うため、初心者でも安心してご参加いただくことができ、令和2年度末までに1,357名の方が登録しています。



- 講師から安全に作業するための説明を受けます。



- サポート隊の車で現場に移動・到着後、作業に当たっての安全講習や準備体操を行います。



- 作業開始！活動内容は時期によって異なります。



- 作業終了！お疲れ様でした。



「とうきょう森づくり貢献認証制度」とは、森づくり活動や多摩産材の利用による二酸化炭素の吸収量・固定量を数値化して、都が評価認証するものです。

森づくり活動による貢献認証

- 0.1ha 以上の下刈、除伐、間伐による二酸化炭素吸収量を都が認定します。

多摩産材利用による貢献認証

→事例【資料 1-5】

- 建築物等に多摩産材を利用した建築主と施工業者等に対して、建築物等に固定されている二酸化炭素量等を都が認証します。
- 多摩産材製品の製造者と購入者に対して、製品に固定されている二酸化炭素量等を都が認証します。

認証された企業は

- 東京都から貢献認証書が授与されます。
- 認証マークを広報媒体等に使用できます。
- 都が関連するホームページ等により、企業の活動内容などが紹介されます。



林業研究グループの活動

林業研究グループは、林業経営に係る学習・研究活動、市民への普及啓発活動等を行う団体です。活動を通して、都民に森林の素晴らしさや林業の大切さなどを伝えています。

森を生かしたイベント

- 子どもたちが楽しめる木工、丸太切り体験や、森林整備が体験できるキャンプイベント等を行っています。



木製の椅子づくり体験



下刈り体験

森の草木を使ったものづくり

- 草木染め、苔玉作りなど、森林から得られる素材を活用した講座を開催しています。



草木染めのスカーフ



苔玉作り体験

施策 4-2 森林を生かした産業振興

なぜ取り組みが必要か

- ◆ 多摩地域と島しょ地域の特色ある森林景観や有用広葉樹を、地域の資源として更に有効活用し、産業振興につなげる必要があります。

2030 年度に向けて

- ▶ 歩道や園地等の整備を促進し、森林空間の魅力向上を図ることで、観光をはじめとする多様な森林利用につなげます。
- ▶ 森林から生み出される多様な林産物が、持続可能で豊かな地域づくりに一層貢献するよう、有用広葉樹林の整備を促進します。

具体的取組



ア 多様な森林利用の促進

- 森林空間のもたらす快適さは、観光業に貢献するだけでなく、健康づくりにも効果があることが知られており、福祉や医療分野における活用も期待できることから、眺望を確保するための森林整備や、園地や案内看板などの設置を計画的に支援します。
- 利用可能な資源が限られる島しょ地域において、有用広葉樹から得られる特用林産物は重要な産業のひとつであることから、これらの造林、保育等を行う町村等への支援の拡充を検討します【資料 3-20】。
- 特用林産物であるシイタケの原木栽培について普及指導を行います。



地域の森林を活用した原木シイタケの生産

- 原木シイタケの生産には、菌を植え付けるための原木（クヌギ、コナラ、ミズナラなど）が必要となります。都内の原木シイタケ生産者の多くは、他県で生産された原木を使用しています。
- 令和 2 年 9 月、青梅きこ生産振興会、青梅市、地元の農林業機械メーカーが「里山等広葉樹林の整備と活用に関する協定」を締結し、地元の森林を活用することで原木を確保するとともに、森林の整備を進める取組を始めました。
- 地元の農林業機械メーカーは、機械や人材の提供のほか、安全講習の開催などを担い、青梅市は森林の所有者の情報提供などを行います。
- 3 者の連携により、原木シイタケの生産振興とともに、森林の整備が進み、地域環境の保全につながっていくことが期待されます。



原木シイタケの栽培

ツバキ

- 伊豆大島や利島ではツバキ林を大切に育て、管理しています。ツバキの実を絞って作られる椿油は、島しょ地域の重要な特産物です。国内の椿油の生産は、東京都と長崎県の2都県でシェアの9割以上を占めています。
- 伊豆大島では、毎年、ツバキが咲く時季に「椿まつり」が開催され、多くの観光客が訪れる島の貴重な観光資源となっています。



ツバキの花



利島のツバキ林



ツゲの工芸品

ツゲ、クワ

- 御蔵島では、古くからツゲやクワが豊富に自生しており、木材として利用されてきました。ツゲ材は硬く、仕上がりがきれいで光沢が出る、割れにくいなどの特徴があり、付加価値の高い将棋駒や印鑑などに利用されています。
- 御蔵島で生産されるクワ材は、歪^{もく}や色味が特に美しいことからシマグワと呼ばれ、珍重されています。

島ごとに特有の景観



式根島 神引展望台



青ヶ島 大凸部展望台



三宅島 雄山環状林道



八丈島 三原山